

平成22年11月 定例会

◆(淵上陽一君)では、農業に対する個別の質問に移らせていただきます。

最初にお尋ねいたしますのは、**たばこ税増税が本県にもたらす影響について**であります。

熊本県で生産される葉たばこは、長年にわたり全国第1位のシェアを誇る、本県農業を代表する産品であります。

しかしながら、昭和60年時点で、耕作農家が3,946戸、栽培面積が3,502ヘクタール、生産量が8,901トン、生産額が162億円あったものが、平成21年度では、耕作農家は1,000戸、栽培面積は1,783ヘクタール、生産量は4,673トン、販売代金は90億円と、耕作者は4分の1に、面積、生産量、生産額は2分の1に激減しております。

そこへ今回のたばこ税増税が襲いかかり、葉たばこ農家、特に若い後継者は、これからも葉たばこ生産で生きていけるのだろうか、大変深刻な不安を抱いております。

私は、たばこ農家の息子として生まれ、祖父母、両親がたばこ畑で作業する中で育ちました。また、今、私の身近に多くの葉たばこ生産者や若い後継者がおられ、その地道な努力の積み重ねを日々目にしております。

それだけに、今回の税収目当て以外には何の配慮のかけらもない増税に対して、一層の怒りを禁じ得ず、本日は、そうした思いを込めて質問させていただきたいと思っております。

先月17日、JTは、2011年産の国産葉たばこの買い入れ計画は、価格を据え置く一方で、栽培面積の増反や新規就農を認めないと発表し、県内葉たばこ農家からは、規模拡大を見込んで設備投資した農家も多く、需要減の不安は大きい、将来も安定した供給基地となるよう、12年産では増反を認めてほしいと、増反復活を求める声が上がっています。

私の地元・山鹿においても、せっかく後継者をつくっても、減反になれば生活が不安定になる、国やJTは、農家にも適切な対策をとってほしいという意見が数多く上がってきております。

本件に関して、昨年12月県議会において、池田県議より、たばこ増税の影響を最も強く受ける都道府県の一つである本県への影響をいかに認識しておられるかとの質問があり、これに対して、知事は「政府においては、増税する場合、葉たばこ農家や小売店などへの経営支援策を検討するとされており、県としても引き続き注視してまいりたい」と答弁されております。

民主党は、マニフェストのもとになった2009年の政策集で、たばこ税の課税方法の検討と葉たばこ農家への対応を同時に行うと明記しました。しかし、今回、葉たばこ農家への影響を回避する具体的な対策は示されておらず、増税だけが実施されております。

財務省は、初年度は630億円の増収を見込む一方で、葉たばこは契約栽培で、すぐ生産量に影響を及ぼすわけではない、増税後の影響を見きわめて対策内容を検討すると述べておりましたが、日本たばこ協会によれば、増税後の10月のたばこの販売実績は、前年同月比69.9%減と、過去最大の落ち込みを記録、月間販売本数も過去最低を更新し、今回の大幅値上げが市場に与えた打撃は極めて甚大であります。

今回のたばこ税増税に当たって、関係者から十分な意見聴取を行わず、安易な税収増のつじ

つま合わせのみに終始した結果、とらぬタヌキの皮算用が外れた上に、この増税が多くの人々の人生を変えてしまう重要な決定であるという認識の欠如と、これによって翻弄される方々への配慮が全く感じられないことに、私は心から怒りを覚えます。

本県は、今回のたばこ増税の影響を最も強く受ける葉たばこ生産県であります。そこで、今回のたばこ税増税に関して、本県葉たばこ農家への影響をいかに認識しておられるのか、農林水産部長にお尋ねいたします。

次に、農業基盤整備についてお尋ねいたします。

政府は、平成 22 年度予算において、戸別所得補償制度の財源を捻出するため、農業生産の基礎である農地や農業用水等の整備を行う農業農村整備事業予算を、前年比 63.1%も削減するという暴挙に出ました。

農業農村整備は、これまでも、生産性の向上や規模拡大など、農業の振興を進める上で極めて重要な役割を担ってまいりましたが、中山間地を中心にまだまだ整備がおくれており、国際的にも食糧需給が逼迫する中で、自給率向上、食糧の安定供給や農地有効利用の観点から、引き続き整備を推進する必要があります。

本会議でも、3月、6月、9月の3回にわたり、農業農村整備事業及び農山漁村地域整備交付金については、農業生産の基礎的整備に必要な施策であり、十分な予算を確保すること、特に、排水対策を行うかんがい排水事業については、今後増加する老朽化した排水機場を適切に更新、整備できなければ、農家や地域住民は甚大な被害を覚悟せざるを得ない切迫した状況にあるため、地方が要望する予算規模に拡大することを求める意見書を決議し、提出しているところであります。

しかし、現実の状況はどうなっているか。ここで、私の住む山鹿における実例を紹介したいと思います。

(パネルを示す)これは、山鹿市の南部、菊池川中流左岸に広がる水田稲作地帯である南島地区で起きている現実であります。

この排水は、昭和 51 年、県営圃場整備事業鹿本中央地区により設置された南島排水機場によって、豪雨時には菊池川へ強制排水を行っています。

しかしながら、設置後 34 年以上が経過し、排水能力の低下に加え、施設の老朽化による機械の故障などが頻繁に起きようになってきたことから、この写真のように、地区の湛水被害も年々増加傾向にあり、農業経営に支障を来している状況にあります。

私が要望を受けた当時は、平成 24 年に完成予定で計画が進められておりましたが、政権交代後、コンクリートから人へという言葉を振りかざして、個々の現場の経緯や現状を精査することなく、一方的に予算を打ち切った結果、現在では先の見通しが全く立たず、地域の関係者は大変困った状況に立ち至っているのであります。

このような状況が続けば、本県農業によって立つ基盤が崩れていくことは自明の理であり、これは何としても食いとめなければなりません。

そこでお尋ねいたしますが、農業基盤整備について、今後どのように対応していかれるのか、

農林水産部長にお尋ねいたします。

〔農林水産部長廣田大作君登壇〕

◎農林水産部長（廣田大作君） まず、たばこ税増税による本県への影響についてでございます。

先月 17 日に開催された葉たばこ審議会の答申では、JTとの契約申し込み面積と買い入れ価格の据え置きがなされたことから、来年の葉たばこ生産については、ほぼ本年並みの生産が維持されるものと考えております。しかしながら、増反や新規就農が認められなかったことは、産地の維持や将来の担い手の確保という観点から、課題を残す形となりました。

御指摘のありましたように、今回の増税によりたばこの売り上げが大きく落ち込んでいることから、本県の葉たばこ産地や生産者等への影響を大変心配しているところです。

本県の葉たばこは、日本一の約 90 億円の生産額があり、水田農業や中山間地における重要な基幹作物となっております。また、葉たばこ農家は、専用の収穫機や乾燥施設などに大きな投資を行っており、他作物への転換も困難であることから、安定的な生産の継続ができなければ、生産農家のみならず、地域農業へも大きな打撃になると考えております。

このため、増税に伴うたばこ消費の減少により減反などが実施される場合は、国、JTによる支援対策が必要と考えており、関係県と連携しながら、支援の実施を働きかけてまいりたいと考えております。

また、県といたしましても、引き続き、県たばこ耕作組合などと連携し、共同利用施設や省力機械などへの支援を通じて、生産体制の強化を図ってまいります。

次に、農業基盤整備についてですが、作物の湛水被害の軽減や畑作物への転換による農家所得の向上を図るため、これまで旧干拓地などの低平地に排水機場を約 160 か所設置するなど、積極的に農地の排水対策に取り組んでまいりました。

これらの排水機場は、県内の水田面積の約4割に当たる2万 5,000 ヘクタールの農業生産や地域社会を支える重要な役割を果たしております。しかし、設置後 30 年を経過し、老朽化している施設が数多く存在し、これらをいかに更新していくかが大きな課題となっております。

御質問がありました南島地区は、昭和 51 年に設置され、設置後 34 年を経過し老朽化が著しいことから、基幹水利施設ストックマネジメント事業により、平成 24 年度完成を目指して整備に取り組んでいたところです。

しかしながら、国の農業農村整備予算は大きく削減され、来年度の概算要求やさきに行われた政策コンテストの結果を見ても、計画どおりに完成させる見通しは立たない状況です。

県といたしましては、ストックマネジメントなどによる施設の長寿命化の取り組みをさらに推進し、更新時期の平準化に努めてまいります。限界があります。

食糧の安定供給を確保するのは、国の食糧安全保障の根幹です。農業を再生し、自給率を向上させるという国家的見地から、地域農業の継続に不可欠な必要最低限の予算は国において確保されるよう、今後とも働きかけてまいりたいと考えております。

〔淵上陽一君登壇〕

◆（淵上陽一君） たばこの方は、しっかりと各県とも連携をとりながらやっていただきたいというふうに思いますし、農業の基盤整備、今部長の答弁にあったとおり、やはり食糧の安定供給を確保するのは国の安全保障の一つであろうというふうに思います。まずは、今、この県の現状をしっかりと訴えていただくことが一番大事であろうというふうに思いますので、よろしく願い申し上げます。